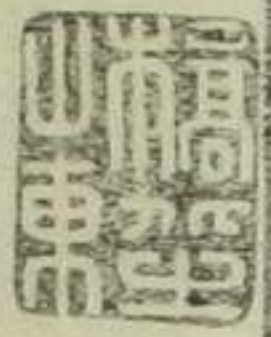


13
2378
19



遠 3
2378
19



唐翁綬題酒化
 逃暑迎春復送秋無非綠
 蟻滿杯浮百年莫惜千回
 醉一盃能消萬古愁幾為
 芳菲賦細草曾因雨靈上
 高樓平生名利關身者不
 識狂歌到白頭

在出
 山東京山題



○菊水八郎当勝

梅田家の忠臣
幼主を守護て

再家と

おこと

智あり

勇あり

其功と

全くと

○北園牛平太

人を破ること此風の

烈寒がごとし積悪逐

其身と亡と



○酒賣與茂作娘

春野く

態ハ春の柳の

こころ心の霜後の

松よ似たり

貞操孝操

千辛万苦

遂に親乃為

仇と斬



○尾形幸助
 武門よ生て
 民間よ長る
 勇の仇を
 復して孝の
 終と全くと



○春野く妹於畿の幽鬼
 主人の身がらにたらし二八の蒼と
 散とさびも其名に還て香し





やんごとこのまじ
 ぐんせいのついでに
 ありとていふあつめ
 とのまうとらんりく
 ありとていふあつめ
 とのまうとらんりく

あると梅田のさかんとのめ
 むのさかんとのめ
 むのさかんとのめ

むのさかんとのめ
 むのさかんとのめ
 むのさかんとのめ

むのさかんとのめ
 むのさかんとのめ
 むのさかんとのめ



まう
 よんせいの
 よんせいの
 よんせいの
 よんせいの

まう
 よんせいの
 よんせいの
 よんせいの
 よんせいの



△おひらき
 やうびのうみ
 ほんごころあけくさのちりし
 りちれいのふてたらあがり
 右しひらき
 けしれたり

△京山作よみわん
 ○目のごん五さ
 ○左ッぢんちうま
 ○小橋ひめとま
 右うむしやい

△あひらき
 せんごころあけくさのちりし
 りちれいのふてたらあがり
 右しひらき
 けしれたり



とやうとまらうり
 オのあけ六乃乃
 されいれはちん
 らびあけかへりち月の
 けらひらきまてん
 ひらきとゆいあさん
 いせなるにちちあて
 ひら月のけらひらきあて
 らびあけとけせらけまて
 うのし年にはまらるに
 おせらひらきあて
 けれ柿田よわらちち
 うてえそあたるあけあて
 こて月のしけあて
 ぶちあてそのあて
 まうけあてせんあて
 あてあて
 かにあて
 らりあて
 せいのり

△あひらき
 こせんあて
 又あて
 せんあて
 せんあて
 せんあて

△あひらき
 せんごころあけくさのちりし
 りちれいのふてたらあがり
 右しひらき
 けしれたり

山東京山作

豊国画

中間のし年ころの
 西國のどくありしが
 けいひあつていふなりて
 かくまひのまゝのし
 ちの月のひにまづつ
 ちの月のひにまづつ
 ちの月のひにまづつ



ちの月のひにまづつ
 ちの月のひにまづつ
 ちの月のひにまづつ

とく丸一つと一おろ
 せききこんどつくと
 きりやうの人用とめん
 ちの月のひにまづつ
 ちの月のひにまづつ
 ちの月のひにまづつ

豊





孝行酒屋の譽の叙の菱の編の自序

這書前編三冊の五月三日蚊帳のうら小稿を
 脱ぬ其右甘泉堂のわら暴草堂よ来りて右編の催
 促わりととと家兄が作の雙蛺蝶菜の花の奇なりと
 閑々孝行酒屋乃二合半の飲人のわんやと右編乃
 樽小呑口とつけむひれく半年の月日ととせうわとひと
 酒徒乃甘泉堂亦来つて樽の後編を斬む丁卯乃
 歳も稍く樽どことなりて賃餅の杵寒燈の御書寒彈の
 聲各箇小器々たりかる表と筆研又親まんやと
 逃言もきかばこそ節季をいふとととととととととと
 書集より右編机の上乃煤掃今歳の筆と奉納金龍山
 歳の市前一日紅塵深き所よ題を

文化己巳正月葦見山東京山再書



志

謹奉

各再拜再拜

為

曙御前各合力可
討待倉判官一味
於有相違卷末所
記可蒙
上梵天下内海外
海七道諸国大小



神祇之御討

起請文之事

二津長九郎阿足
白藤源太平数高
志堀洙之丞賣好
三日月仙藏高行
岩井九四郎角一
飛多妙作丸上成
天軸十九兵衛請善
九尾喜津内好時
孝行善之丞翌歳
温奈久満之助越年



○上にづいたるきくすのけが
ぢさんましたるねんまん状あり

<p>文武火茶釜花香仇討 全七册 勝川春亭画</p>	<p>釣鐘 奉加助太刀 全十册 歌川豊国画</p>	<p>於夏 風流伽三味線 全十册 勝川春亭画</p>	<p>二日替連理花王 全十册 後編 山東京山作</p>	<p>小稲 夜之鶴親父形氣 全部 半兵衛 歌川豊国画 八册</p>
<p>茶 芝神明前 和泉屋市兵衛板</p>	<p>復讐猫股橋田米 全七册 勝川春扇画</p>	<p>孝行酒屋譽劔菱 全七册 歌川豊国画</p>	<p>復讐関太郎物語 全六册 勝川春扇画</p>	<p>秋津島 復讐和布川海門 全部 鬼ヶ嶽 勝川春亭画 八册</p>



京山

善書
印